

特別展示 つくばサイエンスハッカソン2023

太陽との邂逅 2023年

[参加アーティスト] 児玉幸子
[参加研究者] 藤原育/島海森

実写映像とCGによる「太陽との邂逅」と、「オーロラを探して」の二つのパートで構成されるインタラクティブ・インスタレーションです。「太陽との邂逅」では、太陽を連想する磁性流体などを被写体とした映像と、衛星から送られてきた磁場や太陽風のデータを用いるコンピュータグラフィックスで、日々変化する太陽とそのエネルギーを表現します。「オーロラを探して」は、太陽風と地球の磁場が出会って生まれるオーロラに見立てたインスタレーションです。太陽と地球、目に見えない磁場と生命の関係、連続性を、動きの中で感じ、考えるために作りました。

【児玉幸子】※14「Ribome」に記載
【藤原育】JAXA宇宙科学研究所助教
【島海森】JAXA宇宙科学研究所准教授



「太陽との邂逅」別件に向けたJAXA研究者との打ち合わせ



海のクロニクル

関連展示 つくばサイエンスハッカソン2021

海のクロニクル 2021年

[参加アーティスト] 近森基(プラブラックス)
[参加研究者] 和田茂樹/シルバン・アゴスティエーニ

「つくばサイエンスハッカソン」は科学者とアーティストがタッグを組み、新たな価値を共創する取り組みです。2019年にG20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合のつくば市開催決定を契機として開催されました。そのレガシーはつくばメディアアートフェスティバルに引継がれ、2021年から特別企画として実施しています。

「海のクロニクル」は2021年の作品制作です。制作は日本のメディアアートを牽引するプラブラックス。筑波大学下田臨海実験センターで行われている、「海洋酸性化」の研究から着想を得て制作された作品です。エキスポセンターで再展示しています。

【近森基(プラブラックス)】※6「Niche」に記載
【和田茂樹】筑波大学下田臨海実験センター助教
【シルバンアゴスティエーニ】筑波大学下田臨海実験センター助教

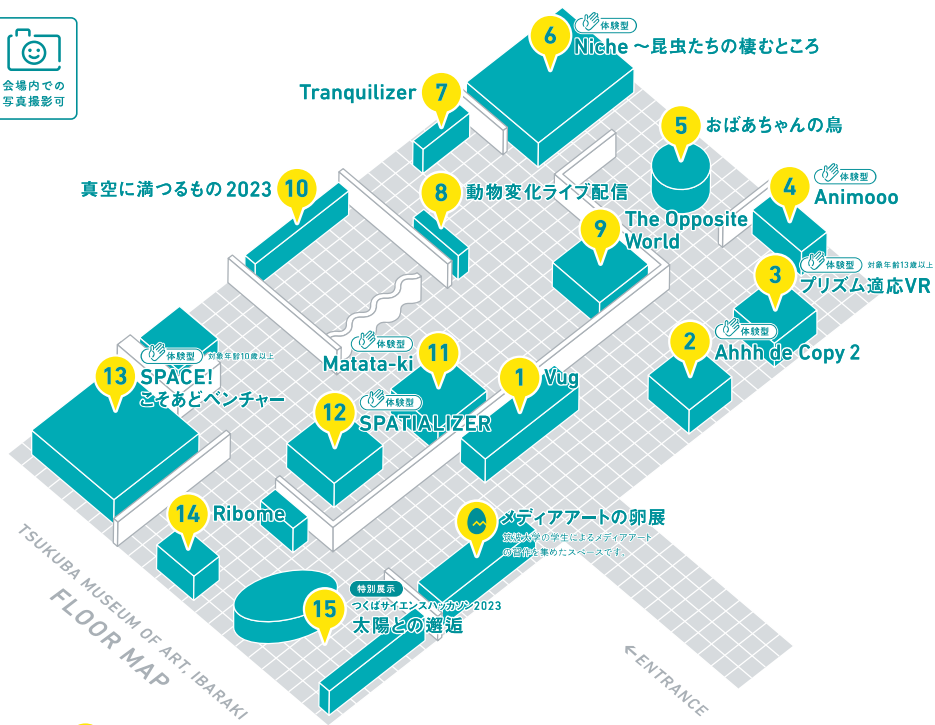
作品配置図

TSUKUBA MEDIA ART FESTIVAL EXHIBITION LAYOUT

体験型 の付いている作品は実際に触って体験できる展示作品です。体験希望の方はお近くのスタッフまでお声掛けください。また、鑑賞型の展示作品にはお手を触れないようお願いいたします。



会場内での写真撮影可



関連展示 つくばサイエンスハッカソン2021 海のクロニクル

つくばエキスポセンター※で展示しています。(展示期間:5月12日(金)~9月3日(日)) ※入場料が必要です。体験日はつくばエキスポセンターHPをご確認ください。 https://www.expo-center.or.jp/

つくばメディアアートフェスティバル2023 イベント

発行:つくば市 発行日:2023年7月27日 問い合わせ:つくば市文化芸術課 Tel:029-883-1111(代表) ©2023 City of Tsukuba All rights reserved.



| 出展者(順不同) | 児玉幸子 / プラブラックス / 逢坂卓郎 / 内山俊朗 | 監修 | 岩田洋夫
尾崎繁 / 勝部里菜 / 鎌谷崇夫 / 青木淳 / 浅井慶朗 / 大滝梨乃 / 岡本晃樹 / 木村朝子 / 小林琴音 / 辻井凜汰 / 豊田朝美 / 内藤恵介 / 中島悠人 / 長谷川泰斗 / 原叶夢 / 細谷耕太郎 / 山下采夏

つくばメディアアートフェスティバル2023

令和5年7月28日 | 金 | — 8月6日 | 日 | 茨城県つくば美術館 | 入場無料 |

休館日: 月曜日 開館時間: 9:30-17:00 (27日15:00プレオープン、最終日は13:00閉館、入場は閉館の30分前まで) お問い合わせ: つくば市文化芸術課 Tel:029-883-1111(代表)
主催: つくば市 共催: 筑波大学工学・芸術連携リサーチユニット / つくば市教育委員会 / 公益財団法人つくば文化振興財団
後援: 茨城県 / 首都圏新都市鉄道株式会社 / 株式会社茨城新聞社 協力: 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) / 公益財団法人つくば科学万博記念財団 会場: 茨城県つくば美術館 (〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2-8 Tel:029-856-3711)





プリズム適応VR

プリズム適応VR

勝部里菜/内山俊朗/尾崎繁 2023年

生理学や脳科学の教育現場で、視覚と運動の関係を理解するために、ガラスプリズムを使ったプリズム適応という運動学習の実験が行われています。私たちは、このプリズム適応を手軽に体験できる運動学習VRコンテンツを開発しました。より広範な応用や教育、リハビリテーションの領域での活用が期待されます。

Vug

原叶夢 2022年

私たちは「赤」や「青」といった色に対する共通認識を持っていますが、実際の色彩には大きな幅があります。同じものを見、同じものを指していたとしても、他人の目は違った様相が映っているかも知れません。この作品では自作した天然顔料を、温度を可視化するサーモグラフィカメラで撮影し普段の世界には映らない新たな色の「尺度」を提示しました。肉眼で見えるものへの懐疑を表現した作品です。

【原叶夢】筑波大学芸術学学位プログラム博士前期2年



Vug

Animoo

山下采夏 2023年

Animooは、ハイタッチで奏でる楽器です。自分自身で拍手する時と、他のアニマルとハイタッチする時とでそれぞれ音のアクションが異なります。フランス留学中に楽器や音楽は世界中の人と対等なコミュニケーションを生み出すツールに達していると気がつき、誰もが、「誰とでも」楽しめる楽器の製作を目指しました。

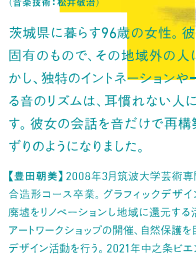
【山下采夏】筑波大学芸術専門学群4年

Ahhh de Copy 2

木村萌々子/勝部里菜/内山俊朗 2022年

Ahhh de Copy 2は、声によって取り込んだ画像に変異を加えて出力するコピー機です。マイクとカメラから入力された声の大きさ高さ、顔の傾きに応じて、出力結果の拡大率や濃淡、回転角度が変化します。新型コロナウイルスの流行で「変異」という言葉を耳にするようになりました。本作品は「複製と変異」をテーマに制作した作品です。

【木村萌々子】筑波大学芸術専門学群卒業
【勝部里菜】筑波大学芸術系特任研究員
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授



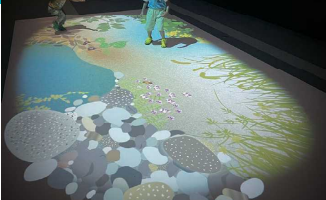
Ahhh de Copy 2

おばあちゃんの鳥

豊田朝美 2023年

茨城県に暮らす96歳の女性。彼女の方言は土地固有のもので、その地域外の人には難解です。しかし、独特のイントネーションや一定で繰り返される音のリズムは、耳慣れない人にも心地よく響きます。彼女の会話を音だけで再構築したら鳥のさえずりになりました。

【豊田朝美】2008年3月筑波大学芸術専門学群構成主専攻総合造形コース卒業。グラフィックデザインの仕事しながら、廣徳をリノベーションし地域に還元する活動や、子どもの為のワークショップの開催、自然保護を目的としたソーシャルデザイン活動を行う。2021年中之条ビエンナーレ出展。



Niche ~昆虫たちの棲むところ

Niche ~昆虫たちの棲むところ

ブラブラックス 2021年

床に投影された様々な自然環境の中に鑑賞者が立つと、葉がめくれて産卵中のチョウが現れたり、河原の石に擬態したバッタが飛び出したりして、昆虫の生態的地位(Niche=ニッチ、ニッチェ)を垣間見せます。

【ブラブラックス】インタラクティブ作品の制作をベースに、空間、映像、プロダクトなど、領域を横断しながら活動している。現うテーマやモチーフの中に潜んでいる物語を掘り下げ、様々なメディアを使って作品化する事で、新しい発見、創造的な学びや、ワクワクするような体験の創造に取り組んでいる。
Ars Electronica(オーストリア)、文化庁メディア芸術祭(日本)など国内外で作品を発表。NHK「デザインあ」などの制作にも携わる。

【岡本晃樹】筑波大学芸術学学位プログラム博士後期1年、ジャズ・フュージョン国際大会ジュニア部門3位受賞、Edinburgh Fringe Asian Arts Award 2021 Best Show, ジャズ・フュージョンの経験から、「人、もの、世界に関わる運動エネルギーの動き」に注目。「様々なエネルギーの動きの中に身体が確かに存在している」という感覚をリアリティを主なテーマに、パフォーマンスと映像を組み合わせた作品を制作している。

【勝部里菜】筑波大学芸術系特任研究員
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授

The Opposite World

細谷精太郎/浅井慶朗/勝部里菜/内山俊朗 2023年

The Opposite Worldは対義語をテーマにしたインスタレーション作品です。鑑賞者の立つ場所によって見え方の変わる蛇腹折のスクリーンを使用しており、右へ左へ動きながら作品を見ると、映し出された文字や映像が混ざり合う感覚を楽しめます。鑑賞しながら普段何気なく使っている言葉の意味やその関係に意識を向けてみてください。

【細谷精太郎】筑波大学デザイン学学位プログラム博士前期2年
【浅井慶朗】東京工業大学工学院情報通信系上課程1年(筑波大学情報科学類卒業)
【勝部里菜】筑波大学芸術系特任研究員
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授

Tranquizer

岡本晃樹 2023年

流れるような身体の動き、ラインやパーティクル群のプリミティブな映像、コーディングやゲームエンジンのインターフェース、内省的なモノローグで構成される30分のマルチメディアパフォーマンス。

【岡本晃樹】筑波大学芸術学学位プログラム博士後期1年、ジャズ・フュージョン国際大会ジュニア部門3位受賞、Edinburgh Fringe Asian Arts Award 2021 Best Show, ジャズ・フュージョンの経験から、「人、もの、世界に関わる運動エネルギーの動き」に注目。「様々なエネルギーの動きの中に身体が確かに存在している」という感覚をリアリティを主なテーマに、パフォーマンスと映像を組み合わせた作品を制作している。

【豊田朝美】2008年3月筑波大学芸術専門学群構成主専攻総合造形コース卒業。グラフィックデザインの仕事しながら、廣徳をリノベーションし地域に還元する活動や、子どもの為のワークショップの開催、自然保護を目的としたソーシャルデザイン活動を行う。2021年中之条ビエンナーレ出展。



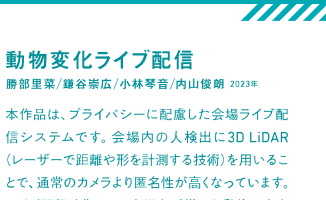
動物変化ライブ配信

動物変化ライブ配信

勝部里菜/鎌谷崇広/小林琴音/内山俊朗 2023年

本作品は、プライバシーに配慮した会場ライブ配信システムです。会場内の人検出に3D LiDAR(レーザーで距離や形を計測する技術)を用いることで、通常のカメラより匿名性が高くなっています。ライブ配信映像では、来場者が様々な動物に変身しているか見つけてみてください。

【勝部里菜】筑波大学芸術系特任研究員
【鎌谷崇広】筑波大学芸術系研究員
【小林琴音】筑波大学デザイン学学位プログラム修了
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授



Matata-ki

Matata-ki

辻井凖汰/大滝梨乃/中島悠人 勝部里菜/内山俊朗/尾崎繁 2023年

Matata-kiは、赤・緑・青の3色の光を自由に操作し、遅延時間を調整することで、狭くような光り方を楽しむことができる作品です。色やタイミングを調整し、好きな場所に配置することで、様々な光り方を創り出すことができます。体験者が創造力を発揮し、試行錯誤が楽しくなるような作品を目指しました。

【辻井凖汰】筑波大学デザイン学学位プログラム博士前期2年
【大滝梨乃】筑波大学エンバウメント情報学プログラム年
【中島悠人】筑波大学知能情報システム学学位プログラム博士前期1年
【勝部里菜】筑波大学芸術系特任研究員
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授
【尾崎繁】筑波大学保健医療学部教授

SPACE! こそあどベンチャー

内藤恵介/青木淳/内山俊朗 2023年

宇宙の探索に向けた調査員は、隕石と接触し謎の惑星に不時着してしまう。飛び散った宇宙船のパーツを回収するため、ローバーに乗ったベンチャー(司令官と交信が出来ずに焦る。その時、「あっち」というメッセージだけが送られてきた)2人で協力して、時間内に「こそあど」言葉を駆使してパーツを集めて惑星から脱出せよ!

【内藤恵介】筑波大学デザイン学学位プログラム博士前期2年
【青木淳】筑波大学エンバウメント情報学プログラム3年
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授

真空に満つもの 2023

逢坂卓郎 2023年

星の終焉時に爆発する超新星からは、膨大なエネルギーと物質が放出され、そこはまた、星が誕生する場でもあります。高エネルギーである宇宙線は時空を超えて地球にも飛来しています。地球生命の生死と進化に関わる宇宙線をリアルタイムで光と音に変換することにより、広大な宇宙からのメッセージを顕在化させようとした。

【逢坂卓郎】1975年 東京芸術大学美術研究科修了。筑波大学名誉教授、博士(芸術学)、ライトアートを多領域で展開。宇宙線の信号をLEDの光に変換する“宇宙線シリーズ”、18名の巨大な鏡が月光を捉える“ルナプロジェクト”は宇宙をテーマとした代的な作品。2008~11年に開催された国際宇宙ステーションでの JAXA 人文社会科学利用パイロットミッションに於いて、光と音をテーマとした芸術実験を宇宙飛行士へ委託し、実施、パブリックアートの設置も多い。

SPATIALIZER

長谷川泰斗/鎌谷崇広/勝部里菜/内山俊朗 2023年

空間のかたちを音源とする電子楽器です。楽器を置いた場所や時間によって音が刻々と変化していきます。また、人の位置によっても音が変化するため、誰でも空間の中にさえいれば演奏に関わることができます。その時、その場で生まれる音との出会いを楽しむ楽器です。

【長谷川泰斗】筑波大学デザイン学学位プログラム博士前期1年
【鎌谷崇広】筑波大学芸術系研究員
【勝部里菜】筑波大学芸術系特任研究員
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授

Ribome

見玉幸子 2017年

「リボーム」は、生物の形の「変化」、「合体」、「分裂」、「伸長」、「再生」をテーマにした、磁性流体を用いたキネティック彫刻です。楕円形のガラス球の内と外に、光の屈折と反射、磁性流体の影が変化し、見る角度によって異なる表情を見せる有機的な3次元造形の無限の変化を映し出します。

【見玉幸子】1970年静岡県岡田清水市生まれ。筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻総合造形コース、芸術学研究科芸術学専攻を修了。博士(芸術学)取得。アーティスト、電気通信大学准教授。創発する自然現象、形態と動き、視覚と音をテーマに作品を制作している。磁性流体のアートプロジェクト「突き出す、流れる」、全身を動かしてボールと映像を連動させて遊ぶ「磁石の星」ボールプロジェクト、格子窓に透る光のイメージが消滅するライトアートなど、独創的な手法と表現による作品は、多くの人々の好奇心を引き寄せ、魅了している。



SPACE! こそあどベンチャー

SPACE! こそあどベンチャー

内藤恵介/青木淳/内山俊朗 2023年

宇宙の探索に向けた調査員は、隕石と接触し謎の惑星に不時着してしまう。飛び散った宇宙船のパーツを回収するため、ローバーに乗ったベンチャー(司令官と交信が出来ずに焦る。その時、「あっち」というメッセージだけが送られてきた)2人で協力して、時間内に「こそあど」言葉を駆使してパーツを集めて惑星から脱出せよ!

【内藤恵介】筑波大学デザイン学学位プログラム博士前期2年
【青木淳】筑波大学エンバウメント情報学プログラム3年
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授

Ribome

見玉幸子 2017年

「リボーム」は、生物の形の「変化」、「合体」、「分裂」、「伸長」、「再生」をテーマにした、磁性流体を用いたキネティック彫刻です。楕円形のガラス球の内と外に、光の屈折と反射、磁性流体の影が変化し、見る角度によって異なる表情を見せる有機的な3次元造形の無限の変化を映し出します。

【見玉幸子】1970年静岡県岡田清水市生まれ。筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻総合造形コース、芸術学研究科芸術学専攻を修了。博士(芸術学)取得。アーティスト、電気通信大学准教授。創発する自然現象、形態と動き、視覚と音をテーマに作品を制作している。磁性流体のアートプロジェクト「突き出す、流れる」、全身を動かしてボールと映像を連動させて遊ぶ「磁石の星」ボールプロジェクト、格子窓に透る光のイメージが消滅するライトアートなど、独創的な手法と表現による作品は、多くの人々の好奇心を引き寄せ、魅了している。

Animoo

山下采夏 2023年

Animooは、ハイタッチで奏でる楽器です。自分自身で拍手する時と、他のアニマルとハイタッチする時とでそれぞれ音のアクションが異なります。フランス留学中に楽器や音楽は世界中の人と対等なコミュニケーションを生み出すツールに達していると気がつき、誰もが、「誰とでも」楽しめる楽器の製作を目指しました。

【山下采夏】筑波大学芸術専門学群4年

Tranquizer

岡本晃樹 2023年

流れるような身体の動き、ラインやパーティクル群のプリミティブな映像、コーディングやゲームエンジンのインターフェース、内省的なモノローグで構成される30分のマルチメディアパフォーマンス。

【岡本晃樹】筑波大学芸術学学位プログラム博士後期1年、ジャズ・フュージョン国際大会ジュニア部門3位受賞、Edinburgh Fringe Asian Arts Award 2021 Best Show, ジャズ・フュージョンの経験から、「人、もの、世界に関わる運動エネルギーの動き」に注目。「様々なエネルギーの動きの中に身体が確かに存在している」という感覚をリアリティを主なテーマに、パフォーマンスと映像を組み合わせた作品を制作している。

【勝部里菜】筑波大学芸術系特任研究員
【内山俊朗】筑波大学芸術系准教授



Animoo